

学校図書館だより

平成28年 2月29日(月) 2月号 山都小学校図書館部

メディアセレクト週間 ～家読をしよう～

2月29日(月)から3月6日(日)まで、本年度最後の校内メディアセレクト週間です。山都小学校では、メディアセレクト週間中は、いつもの読書ではなく、家読(家族で読書を通してコミュニケーションをする)をすることになっています。しかし、なかなか家読がうまくいかないと悩んでいる方も多いと思います。そこで、今回は家読の方法を提案したいと思います。



トガリ山のぼうけん 文・絵 いわむらかずお

この本は、絵本作家いわむらかずおさんの長編絵本です。絵本ですが全8巻あります。子どもから大人まで楽しめる本です。小さなトガリネズミのトガリとテントウムシのテントが天につきささるトガリ山のとっぺんをめざす、冒険の話です。

家読の提案 その1

この本は、挿絵がすばらしいです。身近にある景色が、生き物がリアルに描かれていて、挿絵を見るだけでも「すごい!」と思います。まるで図鑑を見ているかのようです。表紙や巻頭、巻末の絵は色がついているのですが、本文にある挿絵はすべてモノクロで描かれています。ルリシジミ・トノサマバッタ・ギボウシなど、昆虫や植物はスケッチのお手本にもなります。家族で挿絵を見ながら話の中に出てくる生き物たちを探すのも楽しいと思います。

家読の提案 その2

上記のモノクロの挿絵が、読んでいると不思議に色づいて見えてきます。なぜ、モノクロの絵が色づいてくるかというと、文章表現がとても美しいのです。2年生の国語で「様子を表す言葉」の学習が出てきますが、そのお手本のような表現がたくさん出てきます。

冒頭の文を紹介します。

たった5行の文ですが、草のあいだから小さな トガリネズミが見た景色が目の前に広がります。か。サーッと風が吹いて、葉っぱから水の玉がコロコロと落ちていく様子も・・・。普段何気なく 見ている景色だからこそ想像でき、一気に物語の中に入ってしまう。

美しい文に触れることも読書の楽しみの一つです。お気に入りの表現を見つけて、紹介するのも 楽しい家読になるとと思います。

家読の提案 その3

文の中には、「トノサマバッタは、わしを背中に乗せているのにヘタバッタともいわない。」「バイバイというカタツムリたちはマイマイとってカタ目をつむりおった。」など、ダジャレが散りばめられています。読み聞かせをする前に、「どんなダジャレが出てくるか、見つけてね」などとひとこと言って読むと、子ども達は興味をもって聞き始め、ダジャレを見つけたら、きっと、目をキラキラさせて「わかった、わかった。」と得意げに話し、盛り上がると思います。